

認定特定非営利活動法人 道普請人（みちぶしんびと）では  
業務協力委託短期専門家（シニアエンジニア）を募集しています



シニアエンジニア田川氏（建設会社国内現場で約40年間勤務）  
とアフリカの子供たち（ブルキナファソ）



認定特定非営利活動法人 道普請人（みちぶしんびと）  
〒600-8213 京都市下京区東塩小路向畑町 20-13 プレサンス京都駅前 502 号  
Tel/Fax : 075 343 7244 E-mail: [info@coreroad.org](mailto:info@coreroad.org) URL: <http://coreroad.org/>

## 道普請人の活動目的：



泥濘にはまる救急車（パプアニューギニア）  
悪路が原因で救急車が村にたどり着けない  
ことは日常茶飯事



水没した道路上を進む村人（ミャンマー）  
児童の登校や収穫した野菜の市場への運搬  
も困難

開発途上国の農村部の道路は整備が進まず、未舗装で雨季には泥田状態となる、水没するなど、車両、バイク、自転車そして歩行による通行が困難となります。そのため病院や学校、市場へアクセスできず、貧困の一因となります。確かに交通量は少ないですが、沿線住民にとってはライフラインです。公共事業が行届きにくく開発から取り残された地域の人々に「自分達の道は自分達で直す」という意識を広め、くらしの豊かさに向けあきらめずに日々努力するやる気と自信を与えたいと考えています。

## 道普請人の活動内容：

そこで現地調達可能材料を用い人力で実施可能な道路整備手法（土のう工法など）を指導して、道路沿線住民への技術移転・普及を行っています。

先進国の基準をそのまま適用するだけでは高価となり資金不足のため実施できず、状況は改善されません。現地交通事情を踏まえ、住民の維持管理能力の向上を通し一歩前進できるような通行性改善に向けて適切な構造を提案し、住民意見も取り入れ設計を決定し、施工監理を行います。住民が自分たちで道路整備に参画、実施することで、長らく放置されてきた道路の通行性を改善することができます。



道路盛土、土のう（ソイルセメント中詰）の擁壁設置、人力による裏込めと締固め（ミャンマー）



## ミャンマーの事例



道路盛土でかさ上げし、雨季でも通行可能



泥田状態の路面がコンクリート舗装により、自転車やバイクによる走行が可能



歩行時も不安定な橋が、バイク走行可能な橋へ（ミャンマー）

シニアエンジニアの技術指導を得て上記のような道路整備を行った村では、以下のようなインパクトがありました。

1. 子供達の通学時間が短縮され、付添の親達が別の仕事ができるようになった。
2. 雨季に学校を休ませる事が無くなった。
3. 作物の運搬、病人の搬送がバイクや自転車で可能となった。
4. バイクが通行可能になり、村にバイクタクシービジネスが生まれた。
5. 村人自身の手で道直しが可能となった。



村人らとの大家族のような写真

## シニアエンジニアの役割

1. 現地調査測量、計画、設計、必要資機材数量算出、工事費積算、施工図作成  
道普請人スタッフ（日本人）もしくは現地スタッフ（道普請人が事業を実施するために雇用している職員）が、補佐いたします。補佐するスタッフへの技術指導もお願いします。
2. 現地スタッフへの技術指導  
常駐する現地スタッフが、まず施工計画・作業内容を理解習得する必要があります。そのうえで彼らが村人や行政官へ説明し、施工現場では村人を指揮して作業を進めます。  
現地スタッフと施工図などを用いた打合せ、説明会に立ち合い補足や重点事項の追加説明、作業デモ（実演など）、施工中の現場を巡回し現地スタッフによる施工監督状況や出来形を確認し助言することを、お願いします。
3. 業務内容報告書を作成し、提言・助言をとりまとめ、団体へ提出

日本では当たり前のように使用する機材や材料ありきではなく、できるだけ人力と現地で集められる材料を有効利用して工事を行うことが求められます。現在活躍中のシニアエンジニアの方々には、現地住民、現地スタッフと一緒に対象地域に最適な道路補修方法を考えて頂いています。そのため、自然に現地の人々と絆が深まり、皆が1つのチームになって事業を進めています。

日本では考えにくい難題にぶつかる事も多いですが、その難題を乗り越え工事を無事に終えた時の感動はひとしおです。

活動地の1つであるミャンマーでは、地元住民がシニアエンジニアに手を合わせ感謝の気持ちをいつも伝えてくれます。

### シニアエンジニア田中輝彦氏の場合：

2014年よりミャンマーでの事業に参画。新たな生きがいとなり、ご自身でも周りからも若返ったと思われることが多いそうです。現地の方から慕われ、交流を楽しんでおられます。

### 活動期間等

施工地（国）や業務内容により異なりますが、年数回で期間は2～3週間です。

現地での移動は通常は借上車を利用し、概ね現地スタッフまたは道普請人スタッフ（日本人）が付きます。

業務開始までの流れや条件等は別紙を参照いたします。



仕事の合間に地元住民との交流を楽しむ田中氏  
プロジェクトに参加して新たなやりがいに、  
気力いっぱいです。（ミャンマー）



## シニアエンジニアの現地活動の様子



僧侶や村人と、現地スタッフを交えた  
打合せ（ミャンマー）



村人とのミーティング（ミャンマー）



現地スタッフへ指示しながら丁張設置  
（タンザニア）



村人の協力得て測量（ミャンマー）



橋台位置出し  
（ミャンマー）



完了箇所で村人らとの記念撮影  
（ブルキナファソ）

## 生活環境



村を初めて訪れた際に、  
歓迎され振る舞われた食事（ミャンマー）



首都ヤンゴンの中華料理店で火鍋（ミャンマー）



おやつ（スナック）（ミャンマー）



チキンシチュー（タンザニア）



各部屋エアコン備付、シャワートイレ付、  
蚊帳のある宿（ブルキナファソ）



各部屋エアコン備付、シャワートイレ付の宿  
（タンザニア）